

盛発熱、もう1つは陰虚発熱である。「強通法」の解熱作用は前者に適用される。それは陽気が盛んであれば必然的に血盛となるが、瀉血によって血盛を抑えることができ、それによって血脈中の熱邪が軽減し解熱される。人身の気は血を本としており、同時に血にしたがって出入している。血を外に出すと過剰な陽気がどんどん出ていくので、陽盛の状態は改善される。こうして人体の「気血」は平衡状態となり、熱はおのずから退く。陰虚発熱にはこの方法を使うことはできない。

2. 止痛作用

中国伝統医学では、「通じれば痛まない、痛むなら通じていない」と考えられている。その意味は、およそ痛みを伴う疾病であれば、その経脈には必ず閉塞して通じない部位があるということである。「強通法」は血を直接外に排出して、瘀滯を疏通させ、経脈を通じさせるので、痛みはただちに止まる。臨床では、咽喉痛や偏頭痛などの急性症状がたいへん多く、瀉血療法を応用することによって、いずれも満足できる治療効果を収めることができる。

3. 解毒作用

「強通法」は、人体に正気不足・機能障害があるときに生じる毒邪内攻の病症に対応できる。例えば、毒火攻心による「紅糸疔」〔急性リンパ管炎の類〕や毒邪浸淫によって生じる瘡瘍などに対してたいへん良好な治療効果がある。瀉血は人体に侵入した毒邪を血にしたがって排出させるだけでなく、さらに重要なことは「理血調気」によって人体の機能を正常にし、毒邪の拡散と再生を抑制するということである。

4. 瀉火作用

中国伝統医学では、心は「火」に属すると考えられている。もし心陽が亢進すると、心煩・不安・口内炎、ひどければ発熱・意識不明・うわ言などの症状が現れる一連の「火譫症」を起す。心には血脈を主る機能があるため、瀉血によって心陽の過剰な状態を直接軽減することができ、瀉火

の目的を達成することができる。また中医では、肝胆には相火があり、肝は血を蔵していると考えられているので、瀉血によって暴発火眼〔急性結膜炎〕や頭暈目眩〔目がクラクラしてものが見えめまいがする症状〕などのような、肝胆の相火の妄動から起こる病気を治療することもできる。

5. 止痒作用

痒症については、前人は風気が血脈中にあることから現れるものであると考えており、「風を治すにはまず血を治す、血が行けば風はおのずから消滅する」という治療原則がある。瀉血は、すなわち「理血調気」ということなので、血脈が流通すると「風」気が留まることができなくなり、そのため祛風止痒の作用を発揮できる。

6. 消腫作用

「腫」の多くは気滯血渋・経絡瘀積から形成される。瀉血は局所の経脈中の「宛陳」〔脈中の蓄血^{うっちん}〕の気血と病邪を直接取り除くことができるので、経脈の流通を促し瘀阻をなくし、自然に消腫の目的を達成することができる。

7. 痺れを治す作用

中医では、気虚になると血を主導して四肢の末端まで行かせることができなくなり、しばしば痺れの症状が現れると考えている。そこで毫針によって患側の四肢末端の腧穴を刺し、少量の血液を放出させる。痺れの症状に対する瀉血治療は「血行けば気通じる」という理論を根拠としており、機能活動を活性化して血液を四肢の末端に到達させ痺れを治す。

8. 嘔吐を抑える作用

悪心・嘔吐は胃熱あるいは肝気横逆犯胃あるいは食積滯留から起こるものが多い。瀉血は熱を瀉し肝逆を平定することができ、また消化を助け胃の疏通を促す作用がある。

9. 止瀉作用

下痢に対する瀉血治療の範囲は、胃腸の食積による化熱から起こる熱泄〔熱邪による下痢・裏急後重・肛門の灼熱感などの症状〕や流行性の疫毒から起こる清濁混合の下痢などであり、そのメカニズムは瀉火によって小腸の熱を降ろし、昇清降濁の作用を喚起することである。臨床では委中穴を常用し、ゆっくり刺して瀉血する。通常は1～3回で治癒する。

10. 救急治療

瀉血療法は、瀉熱涼血・開竅によって醒神清脳〔心竅が塞がれ意識障害のあるものを治療する〕する作用があり、脳卒中による昏睡や意識不明の患者を救う一種の有効な救急手段であるといえる。

著者は長年にわたる臨床応用を通じて、瀉血療法は以上の10種類の症状に対して用いるのに適しており、いずれも満足できる治療効果を得ることができると考えている。

第3節 ● 強通法の針具と刺法

瀉血療法は、必要性和その条件によって、それぞれ異なる針具を選択するが、临床上よく用いられるのは次の3種の針具である（図4-1）。

1. 三稜針

これは古代九針のなかの鋒針が発展し変化してきたものである。長さは1寸6分、針柄は円柱形をしており、針身は三角状で、三方に刃があるので「三稜針」と呼ばれている。浅在静脈に適用する。

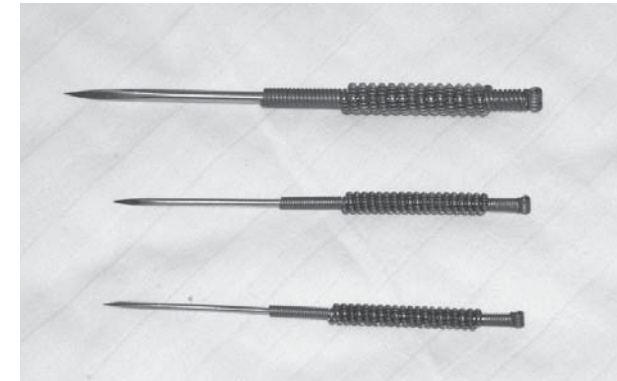


図4-1 三稜針

2. 毫針

古代九針のなかの毫針で、18号のステンレス製を用いる。1寸前後の長さがよい。小児および虚証の患者に適用する。

3. 梅花針

古代の「毛刺」〔皮膚に浅く刺す方法〕から発展してきた針具で、応用範囲は広い。

火罐：火罐〔拔罐療法、吸角法〕は、中国で広く行われており、陶製・竹製・ガラス製など種類も多い。多くの疾病の治療に用いられる。瀉血療法ではその吸い出す作用を利用して、血液を吸い出す（図4-2）。

ゴムの止血帯：四肢の肘窩、膝窩および頭部の太陽・糸竹空などの部位で瀉血をするときは、必ずゴムの止血帯を用いる（図4-3）。長さは66cm前後、脛穴の上端あるいは下端に巻いて、血液の回路を遮断し、脈絡（静脈）が現れるようにし、その後に三稜針を用いて正確に脛穴に当て、0.5～1分の深さ刺入すると、血液が流出する。

瀉血療法は、症状や施術部位によってそれぞれ深さが異っており、以下の5種の刺法がある。